

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム V2.7.0 (2016) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サムティ名古屋市中村区則武1丁目オフィスビル新築工事	階数	地上13F、地下1F
建設地	名古屋市中村区則武一丁目101番、102番、103番、104番1、104番2、104番3、105番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	880人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2023年12月22日
敷地面積	1,383 m ²	作成者	
建築面積	1,027 m ²	確認日	2023年12月25日
延床面積	13,711 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値: 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 82% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外のオンサイト手法: 82%

④上記+オフサイト手法: 82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.9

音環境	4.4
温熱環境	3.4
光・視環境	4.1
空気質環境	4.4

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.8

機能性	4.0
耐用性・信頼性	3.4
対応性・更新性	3.9

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.2

生物環境	3.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	2.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.2

建物外皮の熱負荷	3.0
自然エネルギー	4.0
設備システム効率化	3.3
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.7

水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	3.7
汚染物質回避	4.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.8

地球温暖化への配慮	3.7
地域環境への配慮	2.5
周辺環境への配慮	2.4

3 設計上の配慮事項		
総合	オフィスワーカーにとって「まるで家に帰ってきたような安らぎを与えるオフィス」を実現。室内環境とサービス性能で高いスコアを獲得している。	
その他	特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
音、温熱、光・視環境、空気質環境において、平均3.8の高レベルの品質を確保している。	リフレッシュスペース設置、コンセプトに基づいた内装確認のためのバスによる検証。防汚性のある建材採用による維持管理に配慮。耐用年数の高い外壁や内装材の採用。	外構面の緑化は、沿道沿いの植栽、南側隣地に対する緩衝用に植栽帯を設置し開かれた印象の工夫。植栽樹として花壇、ツリーサークルを日照条件に適した樹種の設置。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
ハイサイドライトの設置の他、省エネ活動のモニタリング実施、省エネ体制の構築を実施している。	省水型機器等の採用や、躯体材料以外におけるリサイクル材の採用、有害物質を含まない材料の使用等で環境配慮がされている。	雨水排水負荷低減、交通負荷抑制の取組み等で、敷地外環境への配慮がされている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)サムティ名古屋市中村区則武1丁目オフィスビル新築工事

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.2
2. 自然共生	評価点 = 2.8
3. 循環型社会	評価点 = 3.6

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。